

受け継がれる 王墓の系譜

荒島地域に弥生時代後期から古墳時代後期にかけて連綿と築かれ続ける首長墓は、四隅突出型墳丘墓に始まり、大型方墳、前方後方墳、石棺式石室を持つ古墳などいずれも地域性をうかがわせるものです。荒島古墳群の変遷を追うことで、出雲東部の王墓の変遷を知ることができます。



仲仙寺墳墓群 宮山墳墓群

—四隅突出型墳丘墓の出現—

四隅突出型墳丘墓は四角い墳丘の隅が張り出した形の弥生時代の墳丘墓で、北陸から出雲地方に多く築かれます。中でも荒島には大型のものが密集する地域です。

特徴的な突出部の形は時代とともに変化しますが宮山4号墓の突出部はシャモジのような形に大きく発達しています。

塩津山墳墓群

—弥生墳墓から古墳への架け橋—

四隅突出型墳丘墓の特徴を持つ方墳、塩津山1号墳が整備されています。

塩津山1号墳は貼石の形状や少し張り出した隅の部分などに四隅突出型墳丘墓の特徴を見ることができます、地域色の強い墳丘墓から画一性のある古墳へと移り変わる時代の変化を見ることができます。

大成古墳 造山古墳群

—大型方墳の系譜—

大成古墳、造山1号墳は1辺が約60mの方墳で、古墳時代前期に限れば全国最大級の方墳です。いずれの古墳も巨大な竪穴式石室を持ち、三角縁神獣鏡などの銅鏡、大刀、ガラス製の玉などの豪華な副葬品が見つかっています。造山2号墳など古墳時代の中期には全国的に少なくなる前方後方墳を築造する点にも出雲地域の独自性が感じられます。

塩津神社古墳 —石棺式石室の世界—

古墳時代後期になると、石棺式石室と呼ばれる横穴式石室を持つ古墳が築造されます。塩津神社古墳は石室が露出していますが元々は墳丘があったものと考えられます。墳丘に隠れる石室の屋根や壁面までを丁寧に削りだして整形する出雲東部に特徴的な石室の形態です。安来市内では塩津神社古墳の他に飯梨岩舟古墳、若塚古墳などがあります。

ACCESS MAP

島根県東部



安来周辺



安来市立歴史資料館

安来市内の歴史資料を展示しています。大成古墳の鏡をはじめとした荒島古墳群の出土品も展示しています。

和鋼博物館

日本刀の素材になる最高級の鋼＝和鋼をテーマにした博物館で、和鋼を生む、たらら製鉄の技術を詳しく展示しています。また、大成古墳出土の復元刀が展示されています。



観光についてのお問い合わせ

安来市観光協会 TEL.0854-23-7667

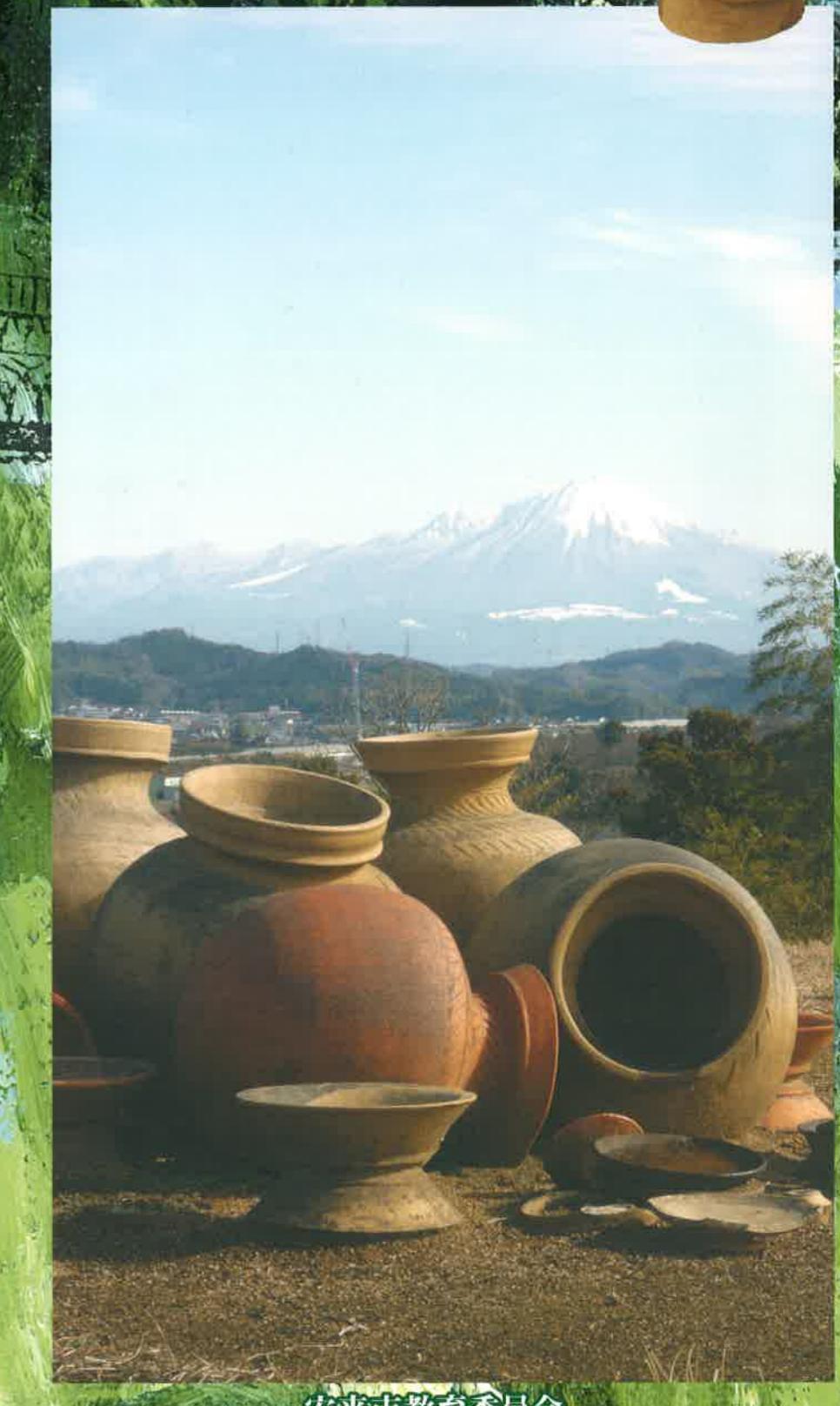
文化財についてのお問い合わせ

安来市教育委員会文化課 TEL.0854-23-3185

荒島墳墓群ガイドマップ

古代出雲 王陵の丘

[こだいいすも おうりょうのおか]



安来市教育委員会

2023年作成

古代出雲王陵の丘

日本国内は3世紀後半ごろヤマト政権を中心に九州から東北地方までがまとめています。その証が格付けされた巨大な墓=古墳です。弥生時代には四隅突出型墳丘墓など強い地域性をもっていた荒島地域の豪族は、古墳時代においてもこの地域の盟主として中海を見下す丘陵上に大型の古墳を絶えすことなく築いています。500年間にわたる王墓の系譜をこの地域の中に見ることができます。

西暦	年代	主な出来事	大型墳墓築造時期
200年	弥生時代	後漢書によればこの頃倭国大いに乱れる	
		四隅突出型墳丘墓が造られ始める	仲仙寺9・10号墓
		邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る	宮山4号墓 塩津山10号墓
300年	古墳時代	前方後円墳の出現	大成古墳 造山1号墳 造山3号墳
		畿内を中心に東北地方から九州地方まで政治的にまとまる	清水山1号墳 宮山1号墳
		倭の五王が宋に使いを出す	造山2号墳 仏山古墳
400年	飛鳥時代	仏教が伝わる	塩津神社古墳
		聖德太子が摂政となる	若塚古墳
		法隆寺 建立	
500年		乙巳の変(大化の改新)	
		壬申の乱	
		平城京に遷都	○中山墳墓

